

第2次熊本市生物多様性戦略（素案）に関する
パブリックコメントの結果について

1 意見募集期間

令和6年（2024年）1月26日（金）～令和6年（2024年）2月22日（木）

2 ご意見の提出状況

ご意見を提出された方の人数 10名

ご意見の件数（まとまりごと） 56件

3 提出されたご意見と、それに対する本市の考え方 別紙のとおり
(内訳)

【対応 1 (補足修正)】

ご意見を踏まえて素案を補足修正または追加記載したもの 24件

【対応2（既記載）】

既にご意見の趣旨、考え方を盛り込んでいる、あるいは同種の記載をしているもの 2件

【対応3（説明・理解）】

市としての考えを説明し、ご理解いただくもの 23件

【対応4（事業参考）】

素案には盛り込めないが、事業実施段階で考慮すべき事
として今後の参考とするもの 7件

【対応5（その他）】

素案に対する意見ではないが、意見として伺ったもの 0 件

第2次熊本市生物多様性戦略(案) 新旧対照表

No	修正前(旧)	修正後(新)
1	P8 2.1(1) 私たちの暮らしを支える生物多様性	
	このような豊かな暮らしは、地球に生物が誕生して以来、38 億年という長い長い年月をかけ、その地域の環境に合わせて進化することでもたらされてきました。最初は海にしかいなかった生物が、進化とともに陸に上がり、山ができたり、川ができたりすることで、その環境に適応できる新しい生物が生まれ、適応できないものは絶滅するといったことが繰り返された結果、多種多様な生物が互いに影響を及ぼしあう生物どうしのつながりができました。	このような豊かな暮らしは、地球に生物が誕生して以来、 <u>約 38 億年</u> という長い長い年月 <u>のなかで</u> 、その地域の環境に <u>適応する進化によってもたらされました</u> 。最初は海にしかいなかった生物が、 <u>環境の変化につれて陸上に上がりました</u> 。山や川、平野、砂漠など、その環境に適応できる新しい生物が生まれ、 <u>適応できなかった生物は</u> 絶滅するといったことが繰り返された結果、 <u>多様な環境の中で私たち人間を含む多くの生物が互いに影響を及ぼしあうつながりができたのです</u> 。
2	P9 2.1(1) 私たちの暮らしを支える生物多様性	
	これは単に、「様々な種の生物が	<u>生物多様性</u> は単に、「様々な種の生物が
3	P9 2.1(1) 私たちの暮らしを支える生物多様性	
	光合成によって酸素を生産し、他の生物が生きるための栄養素を提供します。	光合成によって <u>栄養素を生産し酸素を発生させ、これらは他の生物によって利用されています</u> 。
4	P9 2.1(1) 私たちの暮らしを支える生物多様性	
	遺伝子の多様性の写真(ナナホシテントウ)	<u>ナナホシテントウからナミテントウの写真に差替え</u>
5	P9 2.1(1) 私たちの暮らしを支える生物多様性	
	金峰山の写真から伸びる矢印の位置	<u>金峰山の写真から伸びる矢印は熊本城ではなく山の手前の森に移動</u>
6	P12 2.1(2) (熊本市の調整サービス)	
	本市では、金峰山などの山々に生育する森林や草木などの植物が	本市では、金峰山などの山々に生育する <u>樹木</u> などの植物が
7	P12 2.1(2) (熊本市の文化的サービス)	
	郷土料理である辛子蓮根は、その材料となる蓮根が熊本城のお堀に生育しており、	郷土料理である辛子蓮根は、 <u>江戸時代当時</u> 、その材料となる蓮根が熊本城のお堀に生育しており、
8	P13 2.1(2) 基盤サービス	
	動物や植物などの死がいによって分解された栄養素が木々や農作物を育てる豊かな土壌となるなど、	動物や植物などの死がい <u>が微生物などにより</u> 分解され、 <u>その</u> 栄養素が、木々や農作物を育てる豊かな土壌となるなど、

9	P15 2.1(3)生物多様性の危機	
	生物多様性に支えられている私たちの生活は、便利で豊かになった一方、	生物多様性に支えられている私たちの生活は、 <u>文明や産業の発達によって</u> 便利で豊かになった一方、
10	P15 2.1(3)生物多様性の危機	
	…きました。最後の大絶滅から長い年月が経過した今	…きました。 <u>中生代末に起こったといわれる最後の大絶滅から約 6600 万年の</u> 年月が経過した今
11	P16 2.1(3)生物多様性の危機(熊本市の「開発などの人間活動による危機」)	
	熊本市でも都市化に伴う住宅等の増加により、	熊本市でも都市化に伴う住宅等の増加 <u>や上流域の大規模な開発などもあり、</u>
12	P16 2.1(3) (熊本市の「開発などの人間活動による危機」)	
	白川、菊池川及び緑川の河川上流域に水源かん養林を整備し、地域の農家の協力を得て、転作した水田に水を張ってもらう取組を始めました。	白川、菊池川及び緑川の河川上流域に水源かん養林を整備 <u>するとともに</u> 、地域の農家の協力を得て、転作した水田に水を張ってもらう取組を始めました。
13	P17 2.1(3) (熊本市の「自然に対する働きかけの縮小による危機」)	
	しかし、人の手が入らず管理されなくなった里山林は、放置竹林や耕作放棄地が増加するなど、自然の質が低下しています。	しかし、人の手が入らず管理されなくなった <u>里地里山</u> は、放置竹林や耕作放棄地が増加するなど、自然の質が低下しています。
14	P17 2.1(3) (熊本市の「人間によって持ち込まれたものによる危機」)	
	メダカ類の稚魚の卵を食べたり、すみかを奪うことで、昔は当たり前のように見られたメダカのいる風景が失われつつあります。	メダカ類の稚魚 <u>や卵</u> を食べたり、すみかを奪うことで、昔は当たり前のように見られたメダカ <u>類が絶滅に瀕しています。</u>
15	P18 熊本市の「地球環境の変化による危機」	
	気候変動による影響は、変化のスピードが速いと、生物や生態系がそのスピードに適応できず、生物の大量絶滅など生物多様性に重大な影響を及ぼすおそれがあります。	気候変動による影響は、 <u>気温の変化のスピードに適応できない生物が大量絶滅するなど、生態系に</u> 重大な影響を及ぼすおそれがあります。
16	P22	
	生物多様性が多く残されている	<u>豊かな自然環境が多く残され、生物多様性が維持されています。</u>
17	P24 図 3-1 他	
	(素案で使用している各引用図について)	取得時点の年月日を記載
18	P28 3.1(3)①「金峰山系」:金峰山系の歴史	
	また、林地の～	<u>さらに、金峰山系の一つである天狗山の中腹にある、「天狗山洞窟」は、希少なコウモリ類の生息地として「重要度の高いハビタット」(レッドデータブックくまもと</u>

		<u>2019)に指定されています。</u> また、林地の～
19	P34 3.1(3)④「水前寺・江津湖」:水前寺・江津湖の生物 水温は年間を通して18～20℃と安定	<u>また、江津湖の湧水の</u> 水温は年間を通して <u>おおむね</u> 18～20℃と安定
20	P35 3.1(3)④「水前寺・江津湖」:水前寺・江津湖での活動 魅力発信などが実施されています。 (以降に追記)	<u>このほか、モニタリングサイト 1000 の調査地として、市民活動団体によるホタル類の調査が実施されています。</u>
21	P36 3.1(3)⑤「白川・緑川」:緑川の生物 場所によってはアイアシが優占しています。	場所によっては <u>シオクグ</u> やアイアシが優占しています。
22	P44 3.1(4)②「東区」:課題・展望 放置された竹林の拡大による森林環境の悪化	<u>管理されずに</u> 放置された竹林が <u>拡大することによる</u> 森林環境の悪化
23	P50 3.1(4)⑤「北区」:歴史・文化的な名所 また、小野泉水公園、八景水谷公園、瑞巖寺跡など湧水が豊富な場所もあります。	また、小野泉水公園、 <u>瑞巖寺跡など</u> 湧水が <u>豊か</u> な場所もあります。

**第2次熊本市生物多様性戦略(素案)のパブリックコメントについて
(提出されたご意見と本市の考え方)**

項目		ご意見等の内容	本市の考え方(案)	対応内訳
1	全体	地下水をリーディングプロジェクトにするアイデアについて異論はありませんが、最大の目的が「生物多様性」の保全であることが見えにくくならないように工夫してください。	今後の事業の参考とさせていただきます。	対応4 (事業参考)
2	全体	行政や事業所が行う全ての事業(特に開発行為など)において、発注者や受注者・工事関係者が計画段階から工事完了後までの全ての段階で「生物多様性の保全」の知識と意識を共有して進めることが重要です。また、そこに専門家が助言するような仕組みも求められます。この点を、是非考慮した案にしてください。	今後の事業の参考とさせていただきます。	対応4 (事業参考)
3	第1章 目的・位置づけ等	P2 第1章の概要 1.1、1.3 概要1、3において「誰が」や「誰に」が不明確です。	この戦略は、市民、市民活動団体、事業者、行政等、熊本市のすべての主体の行動の指針となる基本的な計画であるため、これらのすべての主体が対象となっており、当該ページは概要を簡潔に記載しているため主体を省略しています。	対応3 (説明・理解)
4	第2章 策定の背景	P8 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 「このような豊かな暮らしは…生物どうしのつながりができました。」について、内容の割に文章量が少なく整合性が取れていないので、もう少し丁寧に記載する必要があると思います。以下のとおり修正してはいかがでしょうか。 「このような豊かな暮らしは、地球に生物が誕生して以来、約38億年という長い長い年月のなかで、その地域の環境に適応する進化によってもたらされました。最初は海にしかいなかった生物が、環境の変化につれて陸上へ上がりました。山や川、平野、砂漠など、その環境に適応できる新しい生物が生まれ、適応できなかった生物は絶滅するといったことが繰り返された結果、多様な環境の中で多くの生物が互いに影響を及ぼしあうつながりができたのです」	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「このような豊かな暮らしは、地球に生物が誕生して以来、約38億年という長い長い年月のなかで、その地域の環境に適応する進化によってもたらされました。最初は海にしかいなかった生物が、環境の変化につれて陸上へ上がりました。山や川、平野、砂漠など、その環境に適応できる新しい生物が生まれ、適応できなかった生物は絶滅するといったことが繰り返された結果、多様な環境の中で私たち人間を含む多くの生物が互いに影響を及ぼしあうつながりができたのです」	対応1 (補足修正)
5	第2章 策定の背景	P8 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 本文9行目「繰り返された結果、多種多様な生物が互いに」について「繰り返された結果、私たち人間を含め多種多様な生物が互いに」(体内微生物やウイルス、食料としての動植物への影響など人間も生物多様性の中で存在していることを表現すべきと思います。)		
6	第2章 策定の背景	P8 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 生物多様性を説明するなら下図の表現の中に水や作物よりも「微生物、昆虫、植物、動物を記載」した方がふさわしいと思います。 (次ページにはそのような記載有り)	該当箇所は、暮らしを支える生物多様性として、そのめぐみである地下水や食物などを図化したものであるため原案のとおりとさせていただきます	対応3 (説明・理解)
7	第2章 策定の背景	P9 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 「これは単に、「様々な種の…」と記載してあるが、これはでは分かりづらいため、より具体的に、「生物多様性は単に、」と記載した方が良いのではないかと。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「生物多様性は単に、」	対応1 (補足修正)
8	第2章 策定の背景	P9 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 「光合成によって酸素を生産し、他の生物が生きてするための栄養素を提供します。」と記載してあるが、説明が不足しており、分かりづらいため、「光合成によって、栄養素を生産し酸素を発生させ、これらは他の生物によって利用されています。」に修正した方が良いのではないかと。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「光合成によって栄養素を生産し酸素を発生させ、これらは他の生物によって利用されています」	対応1 (補足修正)
9	第2章 策定の背景	P9 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 3つの多様性 種の多様性 動植物にも顕微鏡で見る小さいものも存在するため、「細菌のような小さなものまで」の「のような小さなもの」は削除した方が良いのではないかと。	細菌のように、目に見えない小さなものまで多様な生物がいることを記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
10	第2章 策定の背景	P9 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 遺伝子の多様性の写真 体の模様は個体差があるナミtentウに対して、ナナホシtentウは赤地に7つの斑紋で固定されていることから、ナミtentウなどの写真に差替えた方がよいのではないかと。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 ナナホシtentウからナミtentウの写真に差替え	対応1 (補足修正)

項目		ご意見等の内容	本市の考え方(案)	対応内訳
11	第2章 策定の背景	P9 2.1(1)私たちの暮らしを支える生物多様性 生態系の多様性の写真と説明文が合っていないので揃えた方がよい。海(または干潟)、里地里山、湖(湿地)、…。金峰山の写真から伸びる矢印は熊本城ではなく山の手前の森に移動。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 金峰山の写真から伸びる矢印は熊本城ではなく山の手前の森に移動	対応1 (補足修正)
12	第2章 策定の背景	P11 2.1(2)生物多様性のめぐみ(熊本市の供給サービス) スイカの生産について。とくに植木町は日本一の生産地として有名であるが、一方で、スイカの栽培には多量の水を使用する必要があり、下流域の地下水の減少を招いた一因でもある。また過剰施肥から、植木町は硝酸性窒素による日本三大地下水汚染地帯としても有名であることから、生物多様性の観点からは一概に「めぐみ」と語わけにはいかないのではないか。	市民に馴染みのある特産物を事例として紹介することで、この戦略を身近に捉えてもらうために記載しておりますので、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
13	第2章 策定の背景	P12 2.1(2) 熊本市の調整サービス 「本市では、金峰山などの山々に生育する森林や草木などの植物が」の、山々に生育する森林という表現は違和感がある。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「本市では、金峰山などの山々に生育する樹木などの植物が」	対応1 (補足修正)
14	第2章 策定の背景	P12 2.1(2)生物多様性のめぐみ(熊本市の文化的サービス) 「熊本市を代表する郷土料理である辛子蓮根は、その材料となる蓮根が熊本城のお堀に生育しており」とする記述は、現在でも熊本城の堀に蓮根が生育していると誤解されかねない。加藤清正時代の話である。万一栽培が可能であったとしても、堀を流れる坪井川には下水処理水が大量に含まれており、化学物質等の有害物質が含まれる懸念があるところから、現代においては食するには不適当である。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「郷土料理である辛子蓮根は、江戸時代当時、その材料となる…」	対応1 (補足修正)
15	第2章 策定の背景	P13 2.1(2) 基盤サービス 死がいによって栄養素が分解されるのではなく、微生物などによって分解されることから、下記のように修正した方が良いのではないかと。 …の死骸を微生物などが分解した栄養素によって豊かな土壌になり、木々や農作物を育てるなど、…	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「動物や植物などの死がい微生物などにより分解され、その栄養素が、木々や農作物を育てる豊かな土壌となるなど、」	対応1 (補足修正)
16	第2章 策定の背景	P13 2.1(2)生物多様性のめぐみ(熊本市の基盤サービス) 「熊本市の豊富な地下水も、生物多様性からもたらされる代表的な例」と記述されているが、逆ではないか。「豊富な地下水が生物多様性をもたらす、もしくは生態系を維持する」と書くのが適当。	地下水は、生物多様性の基盤サービスに含まれていることから、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
17	第2章 策定の背景	P13 2.1(2)生物多様性のめぐみ(熊本市の基盤サービス) 「阿蘇山の地下には、火砕流噴火による堆積物によって「すきまに富み地下水を育みやすい地層」が100m以上の厚さで広く分布しています。そこに、「豊富な雨」が降ることにより、地下に良質な水が蓄えられ、その地下水が長い年月をかけてゆっくりと流動することで、私たちに良質な地下水をもたらししています。」 簡単に言うと、水が浸透しやすい地層だということである。降雨が地下水になるまでの期間は、半月…30年程度と、文献によってまちまちであるが、少なくとも、汚染が少ない時代の良質な地下水が保存されているものではなく、ごく近年の雨が循環しているということである。近年、酸性雨や地下水汚染が問題視されているところから、安易に「良質」と表現するのは如何なものか。「良質」とするのなら根拠も併せて記述されたし。	基盤サービスの代表例として、火砕流堆積物が自然のフィルターとなり地下に流れる水をろ過することで、ミネラルや炭酸ガスを含んだ良質な水へと変わっていく地下水の成り立ちを記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。 なお、本市の地下水は、阿蘇外輪山西麓から長い年月をかけてゆっくり流れてくることで市販のミネラルウォーターよりもカルシウムやカリウムなどのミネラル分が豊富に含まれていることが確認されています。	対応3 (説明・理解)
18	第2章 策定の背景	P15 2.1(3)生物多様性の危機 便利で豊かになった理由が記載されておらず説明が不足しているため、下記のとおり修正した方が良いのではないかと。 生物多様性に支えられている私たちの生活は、文明や産業の発達によって便利で…するなど、	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「生物多様性に支えられている私たちの生活は、文明や産業の発達によって便利で豊かになった一方、」	対応1 (補足修正)

項目		ご意見等の内容	本市の考え方(案)	対応内訳
19	第2章 策定の背景	P15 2.1(3)生物多様性の危機 最後の絶滅からと記載してあるが、より分かりやすく表現するため、具体的に下記のとおり修正した方が良いのではないかと。 …きました。中生代末の絶滅から約6600万年前の年月が経過…	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「…きました。中生代末に起こったといわれる最後の絶滅から約6600万年前の年月が経過した今」	対応1 (補足修正)
20	第2章 策定の背景	P16 2.1(3)生物多様性の危機(熊本市の「開発などの人間活動による危機」) 地下水減少の原因を都市化という一因だけに帰し、個人レベルの問題に矮小化しているが、上流域に広がる大規模なハウス農業や工業団地など、企業等による産業活動の影響は無視できない。まさに「開発などの人間活動による危機」であるから、このことも明記すべきである。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「熊本市でも都市化に伴う住宅等の増加や上流域の大規模な開発などもあり、」	対応1 (補足修正)
21	第2章 策定の背景	P16 2.1(3)生物多様性の危機(熊本市の「開発などの人間活動による危機」) 第1の危機の枠内では、河川上流には水源かん養林を整備とあるが、これに続く文章では森林と関係のない水田の水張りが記述されており、内容不一致。また、熊本市では水源かん養林の整備を積極的に行っていると認識。このため、例えば、『水源かん養林を整備するとともに、…』といった記述の変更が必要と考える。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「水源かん養林を整備するとともに、」	対応1 (補足修正)
22	第2章 策定の背景	P17 2.1(3)生物多様性の危機(熊本市の「自然に対する働きかけの縮小による危機」) ・第2の危機中の枠内では里山林を取り上げ、放置竹林とともに、林には含まれない耕作放棄地が記述されているため、『里山林』については、『里山景観』といった表現があっていると考える。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「里地里山」	対応1 (補足修正)
23	第2章 策定の背景	P17 2.1(3)生物多様性の危機(熊本市の「自然に対する働きかけの縮小による危機」) 枠内に、放置竹林についても記述すべきと考える。	当該枠内は、「自然に対する働きかけの縮小による危機」の一事例として記載しておりますので、原案のとおりとさせていただきます。なお、放置竹林については、P29、44に記載しております。	対応3 (説明・理解)
24	第2章 策定の背景	P17 2.1(3) 熊本市の「自然に対する働きかけの縮小による危機」 第2の危機の枠内：農業の担い手不足の原因は少子高齢化が最大の理由ですか？	少子高齢化は、農業の担い手不足の理由の一つだと考えています。	対応3 (説明・理解)
25	第2章 策定の背景	P17 2.1(3)生物多様性の危機(熊本市の「人間により持ち込まれたものによる危機」) 「カダヤシ(特定外来生物)は攻撃性が強く、メダカ類の稚魚の卵を食べたり、すみかを奪うことで、昔は当たり前のように見られたメダカのいる風景が失われつつあります。」と、外来生物だけが原因のように記述されているが、メダカの減少は、水質悪化による水草やコケ類の減少、水量の減少など、複数の原因が重なったもの。生息環境が悪化した結果、種としての生き残る力が弱まり、より強い生物に押しやられているというのが定説ではなかったかと思う。草立てに合わせた恣意的な書き方は不適当である。	メダカ類の減少については、複数の要因があると認識しておりますが、ご意見いただいた箇所については、「人間により持ち込まれたものによる危機」の一事例として記載しておりますので、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
26	第2章 策定の背景	P17 2.1(3) 熊本市の「人間によって持ち込まれたものによる危機」 「メダカ類の稚魚の卵を食べたり、すみかを奪うことで、…」について、「稚魚の卵を食べたり」ではなく、「稚魚や卵を食べたり」ではないか。 また、より具体的な表現で危機を表現した方が良いため、下記のとおり修正してはどうか。 第3の危機の枠内：最後の行 …メダカのいる風景が失われつつあります。→メダカ類が絶滅に瀕しています。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「メダカ類の稚魚や卵を食べたり、すみかを奪うことで、昔は当たり前のように見られたメダカ類が絶滅に瀕しています。」	対応1 (補足修正)
27	第2章 策定の背景	P17 2.1(3) 第3の危機「人間により持ち込まれたものによる危機」 特定外来生物のカダヤシと、在来種のメダカの違いを見せるために、カダヤシだけでなく、メダカの写真を並べて表示してはどうか。	外来種の持ち込みについて記載しており、メダカとカダヤシは写真では区別がつきにくいので、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
28	第2章 策定の背景	P18 2.1(3) 熊本市の「地球環境の変化による危機」 第4の危機の枠内：4行目…生物や生態系がそのスピードに適應できず…この文章を検討してください。特に「生態系が適應できず」という表現は意味がよく分かりません。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「気候変動による影響は、気温の変化のスピードに適應できない生物が大量絶滅するなど、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがあります。」	対応1 (補足修正)
29	第2章 策定の背景	P19 2.2(1)図2-4 図2-4：図中のアルファベットに略称がいくつかあるため、その意味を欄外にでも載せた方が良いのではないかと。	資料編の用語解説の中で記載しますので、当該図については原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)

項目		ご意見等の内容	本市の考え方(案)	対応内訳
30	第2章 策定の背景	P19 2.2(2)国・県…「ネイチャー…保全する…」同じ文章が前出しているので、文章を検討した方が良いのではないか。	該当箇所については、国家戦略においても「昆明・モントリオール生物多様性枠組」を踏まえ、「ネイチャーポジティブ(自然再興)」の実現に向け取り組んでいくことを記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
31	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P22 「生物多様性が多く残されている」という表現の意味が分からないため、下記のとおり修正した方が良いのではないか。 「…豊かな自然環境が多く残され、生物多様性が維持されています。」	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「…豊かな自然環境が多く残され、生物多様性が維持されています。」	対応1 (補足修正)
32	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P24 図3-1他 図3-1「熊本市の位置と周辺地域とのつながり」他素案の全体を通してネットから流用した図版が使用されているが、出典に、いつの時点のデータなのか明記されていない。 ネット情報は随時更新されるものなので、いつの時点のものなのか、図版取得時の年月日を表示すべき。	ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正します。 取得時点の年月日を掲載	対応1 (補足修正)
33	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P28 3.1(3)①「金峰山系」 金峰山系は「金峰山県立自然公園」に指定されているだけでなく、希少なコウモリ類の生息地として「重要度の高いハビタット」(レッド データブックくまもと 2019)に指定されている「天狗山洞窟」もあるため、どこかに追加して記述すべきと考える。	ご指摘を踏まえ、以下のとおり修正します。 ○金峰山系の歴史2段落目:金峰山(一ノ岳)は、～指定されてます。のあとに さらに、金峰山系の一つである天狗山の中腹にある、「天狗山洞窟」は、希少なコウモリ類の生息地として「重要度の高いハビタット」(レッドデータブックくまもと 2019)に指定されています。また、林地の表面浸食及び～	対応1 (補足修正)
34	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P29 3.1(3)①「金峰山系」:課題 竹林の整備という記述については、『竹林の整備』以外に、竹林面積が広がっていることから、『竹林の侵入防止』を記述すべきと考える。	「竹林の整備や継続的な管理」に「竹林の侵入防止」も含まれると考えているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応2 (既記載)
35	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P31 3.1(3)②「立田山」:課題 「…コフキヘイトンボやベニイトンボ、トダスゲ…」と記載してあるが、コフキヘイトンボは立田山では生息確認されていないのではないか。	近年の調査において、コフキヘイトンボが確認されています。	対応3 (説明・理解)
36	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P33 3.1(3)③「雁回山(木原山)」:課題 雁回山における課題について、ニホンジカについては当地に近年まで生息していなかった種で、生物多様性が保全されていました。このため、個体数が増加しすぎないではなく、植生に影響がでない範囲内になるよう個体数管理を進める、といった記述がふさわしいと考える。	ニホンジカについては、生息が確認されており、将来的には個体数管理も行う必要があると考えていますが、現時点ではニホンジカの増加による影響について経過を観察している状況であるため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
37	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P34 3.1(3)④「水前寺・江津湖」:水前寺・江津湖の生物 「水温は年間を通して18～20度と安定しています。」と記載されているが、夏の水温は20度以上に上がることから誤りではないか。	当該箇所は江津湖の湧水の水温データから記載していることから、以下のとおり修正します。 「また、江津湖の湧水の水温は年間を通しておおむね18～20℃と安定しています。」	対応1 (補足修正)
38	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P34 3.1(3)④「水前寺・江津湖」:水前寺江津湖での活動 自然観察指導員熊本県連絡会(自然観察くまもと)では、2023年から上江津湖をモニタリングサイト1000の調査地として、ホテルの調査を行っています。 P31「立田山での活動」とP29「金峰山での活動」の記載と整合性を図るため、この件についても記載しておくべきと考えます。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「このほか、モニタリングサイト1000の調査地として、市民活動団体によるホテル類の調査が実施されています。」	対応1 (補足修正)
39	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P35 3.1(3)④「水前寺・江津湖」:課題 課題において、憩いの場と生物多様性保全地域のゾーニングについて触れた方が良いのではないか。	今後の事業の参考にさせていただきます。	対応4 (事業参考)

項目		ご意見等の内容	本市の考え方(案)	対応内訳
40	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P36 3.1(3) みんなで未来に残したい熊本市の自然環境⑤「白川・緑川」「⑤白川 緑川 坪井川」と、変更 すべきである。坪井川は2級河川ではあるが、熊本市北部を縦断し、熊本城の堀をめぐって熊本駅方面、井芹川に合流して有明海に注ぐ。北から南へ、ほぼ熊本市の中心を貫くように流れており、熊本市のシンボリックな川である。現在では見る影もないが、かつては湧水量豊富な里川であり、水源付近にはセリが自生していた。昭和55 年頃に大規模な護岸工事が行われ、植木町付近で大規模な農業開発が始まると水が退き、水源に水がほとんどなくなったという。時を同じくして、熊本市上水道発祥の地である八景水谷でも湧水量が減少し、乱舞するほどに生息していた蜆が原因不明のまま姿を消した。当時、八景水谷公園内の湧水池では多くの水草が繁茂し、小エビやゲンゴロウなど 多様な水生生物が生息していたが、これらも姿を消していった。平成元年頃に、坪井川沿いの鶴羽田に熊本北部浄化センターが開設され、熊本市北部地域及び菊陽町の下水を浄化して坪井川に流すようになった。当初は 1日 1万ト ン程度の排出で、川の自然浄化能力が働き、以前より水質は良くなったほどであったが、その後排水量が増え、現在では1日11万トンを超える。自然浄化能力を大幅に超えており、暑い日などには悪臭が漂い、都会の排水路と化している。「熊本北部浄化センター」については、県の管轄であるとして、熊本市の文書では記述を避ける傾向にあるようだが、市内に存在するものを、いつまでもないものの如く扱うわけにもいかない。記述すべきことは記述すべきである。この 20 年ほどで坪井川の生態系は大きく変化しており、処理水の排出に伴う水質の悪化に耐えられない水辺生物は姿を消した。詳細な記録が必要と考えられる。来年からは TSMC(半導体工場)の排水も熊本北部浄化センターを通じて坪井川に流されることになっており、さらなる環境の悪化が懸念されている。生物多様性の観点からは、もっとも記載が必要とされている川であろう。ぜひ記載して貰いたい。	みんな未来に残したい熊本市の自然環境は、前戦略策定時に、本市の自然環境の中から、特に「生物多様性の保全上重要な場所(生物の生息・生育地や生態系のつながりを保つ上で重要な場所)」、また、「古くから市民に親しまれ、大切にされている場所」として6か所を選定し、中でも、白川・緑川は、市内を流れる2つの大きな河川として、「森・里・海をつなぎ、熊本市の農業や有明海の生態系を支えてるもの」として選定しましたことから、原案のとおりとさせていただきます。 なお、坪井川についても、保全すべき自然環境として認識しているため、環境に配慮しながら事業実施していきます。	対応4 (事業参考)
41	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P36 3.1(3)⑤「白川・緑川」:緑川の生物 「場所によってはアイアシが優占しています。」と記載されているが、レッドデータブックでも2019にも記載されているシオクグ(NT)については全く触れられていない。	ご意見を踏まえて、以下のとおり修正いたします。 「場所によってはシオクグやアイアシが優占しています。」	対応1 (補足修正)
42	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P44 3.1(4)②「東区」:課題・展望 放置された竹林の拡大による森林環境の悪化が起こっている点については、『竹林の拡大』が問題なのか、それとも「放置され管理されていない竹林の拡大」が問題なのか、あるいは両方が問題なのか、解るように記載をお願いしたい。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「管理されずに放置された竹林が拡大することによる森林環境の悪化」	対応1 (補足修正)
43	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P50 3.1(4)各区の特徴(身近な自然を守る)⑤北区:地理的特徴 ⑤北区 地理的特徴について、坪井川をもっとクローズアップすべき。	北区の特徴を総括して記載しておりますので、原案のとおりとさせていただきます。なお、坪井川については、No.40回答のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
44	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P50 3.1(4)各区の特徴(身近な自然を守る)⑤北区:歴史・文化的な名所 「小野泉水公園、八景水谷公園、瑞巖寺跡など湧水が豊富な場所もあります」と書かれているが、少なくとも八景水谷公園においては、現在では「湧水が豊富な場所」とは言いがたい。園内の池に供給されている水は、わざわざ地下からポンプでくみ上げているのである。情報が古いのではないか。市内各所の湧水地は同様に水量が 低下していると聞いている。確かな情報を掲載して欲しい。	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 「小野泉水公園、瑞巖寺跡など湧水が豊かな場所もあります。」	対応1 (補足修正)
45	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P52 3.2熊本市の生物多様性の現状と課題(1)、(2) (1)記述が不十分で、「現状」を十分に伝えているとは言い難い。ほぼ一般論である。熊本市の現状を把握するための調査を行い、最新の現状情報を提示してほしい。(2)も一般論であり、「熊本市」の課題 を洗い出し、それについて何か述べる事が出来ているとは言い難い。	最新の「現状」や「課題」については、第2章の「生物多様性のめぐみや危機」・第3章の「生物多様性の特徴」に記載しており、当該ページは、そのまとめとして、市の現状と課題を総括的に記載しておりますので、原案のとおりとさせていただきます。	対応2 (既記載)
46	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P54 図3-12 前戦略の課題 2学び・つなげる:課題 学校教育や社会教育についても触れて下さい	当該箇所は、前戦略の振り返りの意見をまとめたものであることから、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
47	第3章 熊本市の生物多様性の現状と課題	P54 図3-12 前戦略の課題 3 守る:課題 「駆除が行われているが、根絶には至っていないため、」と記載されているが、外来魚は低密度管理を目指しており、根絶ではハードルが高い表現になっていないか。	当該箇所は、前戦略の振り返りの意見をまとめたものであることから、原案のとおりとさせていただきます。なお、根絶が困難な外来生物については、低密度管理を行っています。	対応3 (説明・理解)

項目		ご意見等の内容	本市の考え方(案)	対応内訳
48	第4章 この戦略を通して目指す熊本市の姿	P58 4.2(1)市全域『イノシシやニホンジカ等の野生鳥獣が管理され、野生動物との距離が適切に保たれています。』とあり、距離、つまり、生息地境界(ひそむ箇所、農地に出やすい植生繁茂地など)を管理するように読める。そのため、個体数と生息地の境界の両方を管理することを記述すべきと考える。	「野生鳥獣が適切に管理され」の管理には、個体数管理も含んでいると考えられているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
49	第4章 この戦略を通して目指す熊本市の姿	P61 4.2熊本市が目指す2050年の望ましい姿⑤白川・緑川 ⑤白川・緑川・坪井川に変更したほうが良い。	No.40回答のとおりとさせていただきます。	対応4 (事業参考)
50	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P65 5.1 基本戦略と行動計画の概要 基本戦略1「恵まれた地下水について知る」とあるが、「恵まれた」は削除してよい。なぜなら、「2030 年目標」に掲げた「ネイチャー・ポジティブ(自然再興)」は、すでに自然環境が失われている、あるいは問題を抱えている→であるが故に、再興しなければならないということである。恵まれているのならその必要はない訳で、記述が矛盾している。よって、「状態目標」も「①熊本市が抱えている自然環境の問題について周知されている。」などとすべき。	熊本市の水道水源が全て地下水で賄われていることは、人口50万人以上の都市としては世界でも稀有であり、このことを「恵まれた地下水」と記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
51	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P66 基本戦略1:生物多様性を「知る」 行動目標「③ ICT を活用した情報収集や分析を行う」の「 ICTを活用した」は削除してよいのではないかと。ICT を活用するのは勿論であるが、それにとどまらず、現地調査 などの情報収集 は積極的にやって貰いたいと考える。それ故、「ICTを活用した」と、あえて限定する必要もないと考える。	ICTを活用した情報収集に限定しているのではなく、情報収集や分析について、更に効果的に行うためにICTを活用するものであることから、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
52	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P67 5.2各主体に期待される役割 熊本市が行政として事業を行うことや、熊本市からの補助金などで市民活動団体が行動するのは理解が出来るし現実味があるが、市民や事業者が本戦略に協力する直接的なメリットが見えず実現するとは思えない。例えば市民には水検定のような検定を設けて、市民サービスでメリットを与えることや、事業者には一定の基準をクリアすることを表彰したり宣伝活動の補助、指名願の条件にするなど予算を市民に直接還元し、事業者が本計画に協力するにあたって社内のコンセンサスを取りやすい制度を検討いただきたい。単に活動団体にお金を配るだけのシステムや、市職員のポスト作りのような施策にはならないよう切に願います。	今後の事業の参考とさせていただきます。	対応4 (事業参考)
53	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P68 5.3(1)基本戦略1:生物多様性を「知る」 ・状態目標1-1「恵まれた」を削除 ・行動目標1-3「ICT を活用した」を削除。 ・リーディングプロジェクト「恵まれた」を削除。理由は前項、前々項参照。 ・具体的な取り組みについては、もっと増やして良いと思う。	・「恵まれた」、「ICTを活用した」の削除についてのご意見は、No.50、51のとおりとさせていただきます。 ・具体的な取組は、行動目標に対する主な取組を記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
54	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P70 (3)基本戦略3:生物多様性を「守る」 具体的な取組に「■ 地下水質の常時監視、硝酸性窒素対策」があります。市外の地下水涵養域に大型半導体工場が建設され、少ない地下水の汲み上げが計画される中、熊本市内の江津湖、八景水谷等の湧水量の減少が心配されます。水位低下が生じると、生態系の多様性、種の多様性が損なわれる心配があるため、水質や地下水位だけではなく、江津湖等の開放水域の「水位」も連続観測により監視して公開してはどうでしょうか。	今後の事業の参考とさせていただきます。	対応4 (事業参考)
55	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P71 (4)基本戦略4:生物多様性を「創る」 行動目標について、第2の危機との関係から『管理された生態系を増やす』といったことを入れるべきと考える。	基本戦略4の行動目標「4-1生態系に配慮した緑を創出する」、「4-3在来種・希少種を増やす」、「4-4生態系や自然環境に配慮した整備を推進する」を推進することが、管理された生態系を増やすことに繋がり、さらにそれが状態目標4-2「健全な生態系が回復している」に繋がっていくと考えていることから、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)
56	第5章 望まし姿の実現に向けた基本戦略と行動計画	P71 (4)基本戦略4:生物多様性を「創る」 具体的な取組に「■ 生態系や自然環境に配慮した水路整備」、「■ 生態系や自然環境に配慮した河川改修」がありますが、河川や水路はネットワークを形成しているため、県の工事とも連携して取り組んだ方が、より効果が高まると思われます。熊本県が熊本市内で公共工事を行う際に、手厚い配慮が必要な地域では、現状把握や対策の面で熊本市もチェックを入れ、事後のモニタリングまで県が行うよう要請することを書いてはいかがでしょうか。また、熊本市の土地改良事業における環境保全方策を示した「熊本市田園環境整備マスタープラン」は策定年が古く、現状把握や対策の面で不十分になっている可能性があるため、有識者からの助言を受けながら見直すことを書いてはいかがでしょうか。	具体的な取組は、行動目標に対する主な取組を記載しているため、原案のとおりとさせていただきます。	対応3 (説明・理解)